

2015
Vol.12

九大別府病院 だより

Kyushu University
Beppu Hospital

- ② 新年の挨拶
- ④ 対談「おんけん時代の思い出」シリーズ第2回目
～元看護部長関口さんと堀内教授～
- ⑧ 今年度採用医師の紹介
～内科・外科・整形外科・麻酔科～
- ⑩ おんけん症例検討会報告
- ⑪ 新任医療職員の紹介

鶴見岳山頂からの日の出

病院の理念・基本方針

理 念

患者さんに満足され、医療人も満足する医療の提供ができる病院を目指します。

基本方針

- ◆地域医療との連携及び地域医療への貢献の推進
- ◆プライマリ・ケア診療の充実
- ◆全人的医療が可能な医療人の養成
- ◆専門医療の高度化を目指した医学研究の推進
- ◆国際化の推進
- ◆生活の質が向上できる医療の提供

患者さんの権利と責務

私どもは患者さんの権利を守り、病院の理念に基づいた、公平で良質な医療を提供することを目指します。



九州大学病院別府病院
Kyushu University Beppu Hospital



新年のご挨拶

九州大学病院
別府病院長

三 森 功 士

平成27年の年頭に際しまして、ひとことご挨拶を申し上げます。まずは、患者さん、ご家族の皆さん、近隣の先生方、そして職員のみなさん、新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました、本年もよろしくお願いいたします。

さて、わが国は日本の人口動態中の最大集団である団塊の世代の全員が「後期高齢者」となる、いわゆる2025年問題と銘打たれた超高齢化社会を迎えようとしています。この事態に対応するための医療政策が次々と掲げられております。政治・政策を実感することなどこれまであまり経験ないことでしたが、社会保障一税一体改革の名の許、大幅な診療報酬改正というかたちで私たちにも目に見える形で直接迫って参りました。具体的にはすべての医療機関の機能分化を支援し、急性期なのか慢性期なのか病院の役割を明確にすること。病院としての旗印を明確にすること、さらに地域における医療および介護の総合的な確保の推進であります。われわれは、市内唯一の大学病院として冷静に対応し、少しでも患者さんにとって一番の恩恵と福音とがもたらされるような病院に、改善していきたいと思っています。

私ども九州大学病院別府病院は、平成23年4月「難治であるためにあきらめていた笑顔を取り戻す病院」をキャッチフレーズに開設をいたしました。特に、整形外科（診療科長：土井俊郎）は昭和6年の温研九大病院発足以来全くはじめての診療科でありましたが、別府市民のみならず大分県の内外から沢山の患者さんに受け入れていただきました。関係の皆さんに心からの感謝を申し上げます。

また、内科(診療科長:堀内孝彦)は、二つの診療科「免疫・血液・代謝内科」と「循環・呼吸・老年病内科」とを発展的に統合し、新たに「内科」として生まれ変わりました。リウマチ・膠原病、悪性腫瘍、消化器、循環器疾患を緊密かつ統合的に診療できる内科として難病の治療、研究を推進しています。

さらに放射線科(診療科長:平川雅和)は当院の前身である生体防御医学研究所附属病院時代以来20数年間、皆さんにご愛顧いただいておりますが、昨年10月よりようやく入院病床を持たせていただくこととなりました。近隣の開業の先生方にもご信頼いただいている高精度な画像診断に加え、2名の放射線治療専門医による最新のテクノロジーによるがん治療を実施しております。

麻酔科(診療科長:大庭由宇吾)は常勤医2名により毎日、安心安全な手術室運営を実現いただいております。最後に、わたくしども外科も病院内外の多くの先生方に助けていただきながら、手術・治療をさせていただいております。また世界一を合い言葉にしたがん研究も推進しております。

上述した様に到来する超高齢化社会に備え、英知を結集して、皆さんに喜んでいただけるような診療を展開して参りたいと存じます。すなわち(1)大学病院としての急性期病院としての役割、(2)病院の旗印となる様な高い専門性を有した診療のご提供、(3)地域の先生方との強靱な連携、(4)高齢者特有の疾患に対する診療、(5)治験などの臨床研究の推進、そして(6)基礎研究の世界への発信。この6つを今年の抱負といたしまして今年一年間取り組んでいく所存です。

「自分あるいは自分の家族が病気になったら、かかりたい病院」を合い言葉に、職員一同、家族のように一丸となって頑張りますので、本年も何卒よろしくお願いいたします。



対談

「おんけん時代の思い出」

～元看護部長関口さんと堀内教授～ シリーズ 第2回目



略歴

関口 キミエ (大正14年生、長崎県出身)

昭和17年10月 九州大学温泉治療学研究所 看護婦

昭和19年12月 南京第一陸軍病院

昭和21年12月 国立筑紫病院

昭和23年 4月 国立大村病院

昭和27年 8月 九州大学医学部附属病院

昭和29年 4月 九州大学温泉治療学研究所

昭和54年 4月 九州大学温泉治療学研究所 看護部長

昭和60年 3月 定年退職

昭和62年 4月 勲5等瑞宝章

昭和63年 5月 園遊会ご招待

「おんけん時代の思い出」は前号より3回シリーズで掲載しています。前号「学生時代の思い出」「看護師としての出発」「戦後の再出発」に引き続き、今号はシリーズ第2回目となる「温泉治療学研究所の時代」「外国の患者も多数来院」「高度成長期の思い出」をお送りいたします。

温泉治療学研究所の時代

堀内 戦後の混乱期、看護師や医薬品などの人手・物資不足の中、今では考えられない若さで、長崎の大村病院で看護長になられ、大変ご苦労なされたことでしょう。特に、ご出身地の長崎を後にし、九大病院で、昼は看護婦として、夜間は将来のため勉強する、とてもすばらしい決意ですね。九大では、内科、外科、感染症と幅広く勉強されたのですね。また、戦後の大変な苦労やつらい思い出が多く、心中をお察しいたします。九州大学病院、温泉治療学研究所の様子をお聞かせください。

関口 須河内総婦長には九大での勉強を強くお願いしましたが、まず病院の仕事に慣れてからと、昭和27年8月から九大病院でも結核病棟の勤務になりました。内科共同の結核病棟で、所属は第二内科でしたので、排菌のない2階の病棟に配属になりました。肋骨切除の手術の介助もしていました。昭和28年12月に、温泉治療学研究所の江原看護長が心臓発作で急に亡くなったため、温研の矢野先

生から須河内総婦長のところへ、私に看護長として、温泉治療学研究所に来てほしいと、3回もお誘いがありました。勉強がまだ途中だったこともあり、行くのを悩んでいましたが、1回誘いが来る方はあっても、3回も来る方はいないので、そろそろ尻を上げなさい。勉強はいつでもできるからと須河内総婦長から転勤を勧められました。先輩の中で、別府の看護長で勤務したいという人はいるけど、あなたにご指名だからといわれ、昭和29年に、半分、命令のような形で別府に赴任いたしました。

別府ではまず、矢野先生のご指導をいただき、先生の専門であるリウマチ、膠原病、全身性エリテマトー



当院敷地から高崎山を望む（平成25年頃）

デス、悪性リンパ腫、間質性肺炎等の患者さんを担当することになりました。

当時は、全身性エリテマトーデスという病名の患者さんがいることも知りませんでした。その患者さんは2人いましたが、お一人は愛媛県の方で下血をされてお亡くなりになったのは、今でも忘れられません。患者さんは、愛媛県の他、宮崎県からも来られていました。難病になったら温研に行けば良くなるということで有名になっており、あちらこちらから来ておられました。赴任当初、内科の先生が以前学生でいた頃より少ないなと思っていましたら、温泉の分析で愛媛県に行っておられたと聞いて、大変びっくりしたことを思い出します。

外国の患者も多数来院

堀内 その後、当時はまだ、日本でも珍しかった外国の方が度々治療にこられたそうですが、どのような様子でしたか。

関口 昭和30年代は、外国人、貿易商の方が数多く来られました。

最初に来られたのは、ベトナムの方でした。福岡大学病院の教授が連れてこられた方で、中国系ベトナム人（フランス領インドシナ）の方でして、温研が有名な病院になりつつあることを実感いたしました。

別府の杉の井ホテルや宿屋に3ヶ月間程滞在して、度々来院する方もいました。中国人（香港系）、フランス人の方から、当時は珍しかった、外国郵便のお礼状をいただいた事もありました。

内科の研究が有名になり、外国から温研の視察に来られる方もいました。ベトナム、イランの外交官、ノルウェーのスキーマの選手（オリンピックで優勝した選手）は温泉のリハビリテーションを視察され、その際は案内もしました。特に、中国人の患者さんで陳さんは、リハビリに励んでいました。当時、栄養士が、外国人の患者さんから、時々献立のリクエストを受けていました。私費ですが、盆と正月が一緒に来たようなごちそうだったと言っていたことが記憶に残っています。

また、当時現役だった大臣の方で、自分のお世話になった方のお見舞いに、病院の名前、場所やお世話になった方のことを調べもせずに内密で来院されたこともありました。

大臣が到着前に警察の方が警備にこられて、大臣が到着されました。お見舞いの方は、当院ではなく、農協のリハビリテーションセンターに入院中であることをお伝えしました。大臣がもそもそと体を動かしていたので、何かお探しますかと尋ねたところ、トイレを探していたということでしたので、直ちにトイレを案内し、ああすっきりしましたと言って、農協のリハビリテーションセンターへ行かれたこと



当院敷地から高崎山を望む（昭和46年頃）

が思い出されます。当時の温研は、すでに全国的に有名でしたから、調べもせずに来られたのでしょう。この時代の先生方は一生懸命研究されて、学会に発表されて有名になったので、先生方にとっては名誉なことだと思います。

なかでも、矢野先生からは温泉リハビリテーションについての冊子「理学療法要覧」（第27回温研祭（昭和33年10月31日）を記念して再版）をいただきました。温泉の治療をするため、看護婦も温泉治療学研究所にて3ヶ月間くらい勉強をいたしました。松尾先生からは、「看護婦は治療出来ても出来なくても、わからなくても見学しなさい」と指導され苦労しました。



旧東病棟（昭和45年頃）

高度成長期の思い出

堀内 よく覚えておられますね。明晰ですね。

温研のことを克明に覚えている方は、もう一人もいらっしゃらないです。

関口 昭和39年の東京オリンピックの翌年、当院のリハビリテーションにはたくさんの浴場がありました。鉱泥浴はその頃まだ無かったのですが、内科の畑一郎先生が、ファンゴパックを熱心に勉強されておられ、作り方を教えていただきました。

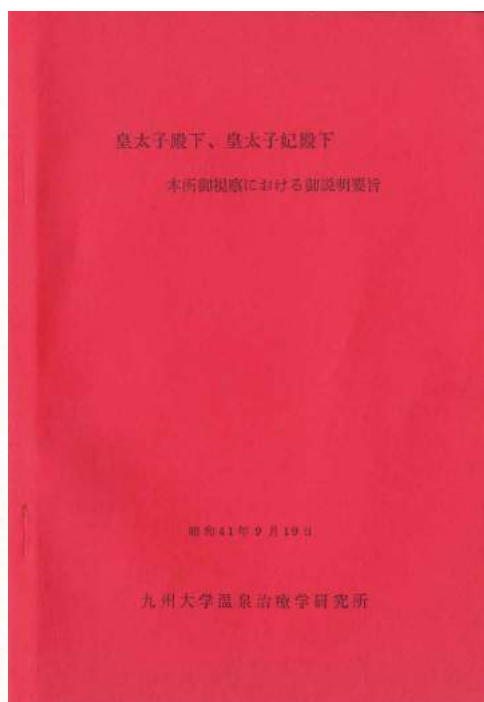
また、このころの温研祭の時には、毎年のように山で豚汁とかお弁当が出て、私たち看護部はお茶を点てていました。温研祭の創立記念日には、毎年招待が行きますので、お茶の所には、初代の看護長の加



旧南病棟（昭和45年頃）

藤さんがいつもおいでになっていました。

加藤さんは、昭和6年の開設当初、宿舎も何もない時でしたから、この土地を寄付された村長さんの家から、毎日病院まで通われたそうです。朝日村と石垣村がこの土地を寄付したと聞いています。温研祭の野点には、内科の小林幸吉先生もよく来られていました。とても人気のある先生でしたから、「私が点てる、私が点てる」と若い看護婦が喜んでお茶を点てていました。先生もじっと点てるのを待っていて、毎年3杯くらいは召し上がっていたと思います。



皇太子殿下、皇太子妃殿下がお見えになられた際に使われた視察冊子

「皇太子殿下、皇太子妃殿下 本所御視察における御説明要旨」
「昭和41年9月19日 九州大学温泉治療学研究所」

堀内 皇太子殿下が来院されたようですが、その時はどのようなものでしたか。

関口 昭和41年9月19日、皇太子殿下、皇太子妃殿下が当院を見学された時には、全職員が玄関でお出迎えしました。殿下は緊張しておられる様子でしたが、妃殿下は、治療棟で患者さんに「あなたもステロイドを使ってらっしゃいますか？ムーンフェイスになりましたか？」と声をかけて下さったそうです。この頃、治療薬としてアスピリンしかなかった治療に、ステロイドが使われ始めた時期でした。リハビリの見学は、当時温研所長であった外科の八田秋先生が案内されました。

皇太子殿下、皇太子妃殿下が来られたのは、大分県で国体が開催され、別府青山高校が水泳の会場でしたので、ご視察に来られたそうです。温研のリハビリテーションを熱心に見学され、ご休憩場所は、大分県温泉熱花き研究指導センターだったと聞いています。そのことがきっかけで、全国の看護の勉強会で、宮内庁に女官として働いている妹さんがいる看護部長と知り合いになり、時々、色々なニュースが入ってきました。なかでも、東宮御所の真上に神父さんの修道院があり、その修道院に連れて行ってもらったことがあります。妃殿下が子どもさんと一緒にいる時はお顔がちがうのだと聞いて、妃殿下も一人の母親でいらっしゃるのだとほほえましく思いました。その他には、水俣病の患者さんのことが思い出されます。水俣病の患者さん4人（8才位、20代、30代、



旧看護婦宿舎（昭和45年頃）

50代）が入院の際は、病室を離れたくないという強いご希望があり、娯楽室を2部屋に仕切り、2人、2人で入院していただきました。この時は、温泉浴で、水銀の排出量に効果があるかどうかの実験を半年間行ったようで、その結果、鉍泥浴に効果があったという結果が出たそうです。

特に思い出されますのが、その8才位の患者さんの付き添いに、本人のおばあちゃんが付き添っていました。今の若い方々には、理解出来ないかもしれませんが、当時、入院の付き添いは珍しいものではありませんでしたが、その付き添いのおばあちゃんには、ぼんぼんベット（簡易ベッド）が無かったので、床に寝ていました。今思えば、腰も痛かっただろうに、他のベッドを準備すれば良かったと今でも悔やまれます。

その後、その4人の患者さんから水俣市民病院（現、水俣病院）へ伺う機会をいただき、大変感謝しております。（最終号に続く）



建設が進む正面玄関、旧南病棟（昭和46年頃）



内科

血液内科

血液の病気について遠慮なく御相談下さい。

血液内科には、①（出血していないのに）貧血がある、② 血が止まらない、③ 感染症が治らず調べてみたら白血球の異常が発覚、④ リンパ節などが腫大、といったことで初診される方がほとんどです。これらの症状の中には、すぐには治療が不要ものの慎重に経過をみていく必要があるものから、放置しておくとも生命に関わるものまで様々な病気が隠れていることがあり、しっかりと診断する必要があります。これらの症状を示す疾患の中には、白血病や悪性リンパ腫といった「血液のがん」が隠れていることもあります。高齢化に伴い増加しているものの、治療方法も日進月歩しており、病気によっては長期生存が期待できるようになっています。しかしながら、いつ・どのような治療を行うか、治療を行った場合の副作用（一時的に生じる高度の白血球減少など）への対応にも血液専門医などによる専門的判断が必要です。現在、当院では、2床の高度白血球減少時の感染管理のために必要なクリーンルームがあり、更に、放射線治療も行える体制を整えています。血液の病気を疑い、お困りの点あれば、遠慮なく御相談下さい。



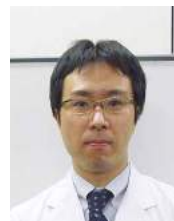
伊藤 能 清

腫瘍内科

抗がん剤治療はがん薬物療法専門医のもとで！

がんの患者さんは次第に増えており、使用可能な薬剤も次々に新たなものが登場しています。新たな薬剤は優れた効果を発揮する一方で、多彩な副作用には細心の注意が必要です。ますます高度化する抗がん剤治療に力を発揮することを期待されるのが抗がん剤専門医である腫瘍内科医です。

私は平成25年にかん薬物療法専門医の資格を取得し、4月より九大別府病院に赴任しました。特に消化器がんや肉腫、原発不明がんの経験が多いですが、稀少ながんの薬物療法や合併症のために治療が難しい症例など、是非ご相談ください。



田村 真 吾

関節リウマチ

関節リウマチのトータルマネジメントをめざして

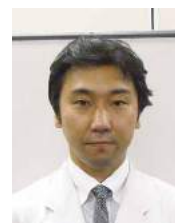
当院は歴史的にも関節リウマチを中心とした膠原病の患者さんを多く診療してきました。関節リウマチは疼痛のみならず長期の経過とともに関節の変形から日常生活に支障を来しうること、また関節以外の種々の臓器にも症状を呈し得る難治性の疾患です。近年、新しいリウマチ治療薬の「生物学的製剤」が登場し、治療成績が大きく向上しました。当院でも多くの患者さんに使用しておりますが、より早期に関節リウマチを診断し、関節の変形を来す前に十分な治療を行うことで、支障なく日常生活を送れることを目指しています。関節リウマチを早期に診断するために、当科では関節エコー検査や関節MRI検査といった検査が迅速に行える体制を整えています。また、長期に経過され、身体機能に支障が生じた患者さんへのリハビリも積極的に行っており、関節リウマチに対するリハビリ治療患者数も九州有数です。

（木本泰孝・前川真貴子）

外科

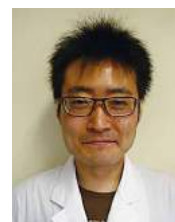
平成26年4月より九州大学病院別府病院 外科に赴任させて頂いております井口友宏と申します。平成15年に広島大学医学部を卒業し、九州大学 消化器・総合外科に入局致しました。

肝胆膵外科を専門としておりますが、これまでも消化器外科全般の診療にも従事してまいりました。消化器癌のみならず、胆石やヘルニア、腹腔鏡手術まで幅広く対応可能です。また高齢社会となってきた昨今、高齢の患者さんの全身状態、社会的背景に合わせた治療も経験してきており、当院においても積極的に対応させて頂いております。消化器外科専門医、癌治療認定医としてこれまでの経験を活かして別府の医療に貢献できるよう頑張っていきたいと思っております。私は、これまで別府とは縁もゆかりもありませんでしたが、別府に移り住み半年以上が経過しました。別府湾を眺望でき、温泉の湧き出るこの別府の地での居心地の良さを痛感しております。この地での生活、診療を通して当地域の特色を理解し、ニーズに合わせた診療を行うことを心がけています。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



井口 友宏

平成18年九州大学卒、麻酔専門医の崎村正太郎と申します。毎週金曜日、手術症例の麻酔管理を担当します。患者さんそれぞれにあわせた、術前、術中、術後管理を心がけます。別府病院のために、一所懸命頑張りますので、宜しくお願いします。



崎 村 正太郎

毎週月曜日、上・下部消化管内視鏡検査を担当しています。患者さんの症状や不安など、お話を伺いながら、丁寧な観察を心がけ、高齢社会のニーズに合わせ、経皮内視鏡的胃瘻造設術 (PEG: percutaneous endoscopic gastrostomy) を行います。



齋 藤 衆 子

整形外科

今年より当院に赴任して参りました、末次弘征と申します。

昨年までは脊椎を含め、一般的な整形外科領域に対して広く診療に当たっておりました。当院では脊椎外科として研鑽を積み、患者さんの生活がよりよいものとなるように頑張ってお参ります。宜しくお願い申し上げます。



末 次 弘 征

麻 酔 科



大庭 由宇吾



小松 由希子

当科では手術時の麻酔管理、術後痛・慢性痛の治療に力を入れています。

手術中、眠っている患者さんの側にいて常に見守り、変調があった時には迅速に対処しています。また患者さんが眠っている内から鎮痛を始めて、病棟へ帰るときには痛みが和らいでいるように工夫しています。外来では慢性痛の治療を行っています。ブロック注射や薬物治療を通じて、長く痛みを苦しんでいる患者さんの痛みが少しでも和らぐように手を尽くしています。

第8回「おんけん症例検討会」を開催しました。

第8回おんけん症例検討会は、ホテル白菊にて昨年11月17日(月)に開催しました。

今回の症例検討は、外科からで、①大腸がんの肝転移、②脾腫瘍、③乳癌の症例呈示、ディスカッションを行いました。また、特別レクチャーは、内科の田村先生から、「腫瘍内科の役割とがん薬物療法最前線」の講演でした。会を増す毎に、別府市からのみならず、遠方からご出席の先生方も増えてきております。次回は、2月頃の開催を目指しておりますので、ふるってご参加願います。

新任医療職員の紹介

5月以降に採用となった職員の紹介を致します。



慢性疾患診療部

生野 有一

- ① 大分リハビリ専門学校、平成8年度卒
- ② 関節運動学
- ③ 関節ファシリテーション研究会所属
- ④ 患者さんの最小の努力で最大の効果が得られる機能訓練を目標とし、日々精進して参りますので、宜しくお願い致します。
- ⑤ 読書、小旅行



診療放射線室

重谷 昇

- ① 九州大学医療技術短期大学診療放射線技術学科、昭和63年度卒
- ② 画像検査
- ③ 日本放射線技術学会、日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定
- ④ たくさんのハートフルなスタッフとともに、患者様の笑顔あふれる別府病院となるようお役に立てればと思います。
- ⑤ キャンプ



5階病棟

前畑 英紀

- ① 大分県
- ② 5階病棟
- ③ サッカー観戦、空手道、温泉巡り
- ④ 患者さんの力になれるように看護技術、知識、感性を磨きます。大学を出たばかりの若造ですが、努力しますので宜しくお願いします。
- ⑤ 大分県の誇る「湯のまち 別府」ならではの「温泉」に入浴できる病院です。温泉に癒されながら入院生活を送る事が出来る所が良いと思います。



5階病棟

長岡 麻衣

- ① 大分県
- ② 5階病棟
- ③ スポーツ全般、ドライブ、旅行
- ④ 患者さんの個性をとらえ、満足していただけるような看護を提供していきたいと思っています。
- ⑤ 温泉を生かした治療が特徴で、県外からも患者さんが来られるので、他の病院にはない良いところだと思います。業務ではPNSが導入されており、スムーズに業務をこなす事ができています。



5階病棟

中林 紘一

- ① 福岡県
- ② 5階病棟
- ③ バイクツーリング、ダーツ
- ④ 様々な看護技術を身につけ、どんな状況にも対応できる看護師になること。患者さんから必要とされ、患者さんが心から満足するような看護。
- ⑤ 病院からの眺めが良く空気がきれい。みなさんが、ていねいに色々教えてくれること。



5階病棟

折居 裕香

- ① 大分県
- ② 5階病棟
- ③ 散歩、一人旅、特技Made in Japanの品物を見つけること。
- ④ ひとつひとつの事をきちんと理解して相手に説明できる看護師になります。
- ⑤ 業務中はプライベートな発言がなく、オン・オフが明確であると感じました。実習中、「ここで働いてみたいな」と思っていて、叶ったと思うと不思議です。学校の白衣ではなく病院の白衣を着て階段を使っていると様々な感情が湧いてきます。



外来

尾平 小百合

- ① 大分県
- ② 外来
- ③ 食べること、園芸、いなかをドライブすること。
- ④ 患者さんに安心できる看護を提供したい。
- ⑤ あったかい雰囲気、礼儀正しさ。



外来

坂本 智香

- ① 大分県
- ② 外来
- ③ 食べ歩き、料理、マクロビオティック
- ④ 外来は、病院の顔であることを意識して、笑顔を忘れず、親しみのある看護師でありたいです。
- ⑤ 自然に囲まれた居心地の良い環境です。



外来

清水 千恵

- ① 大分県
- ② 外来
- ③ スポーツ観戦
- ④ 安全第一で頑張ります。
- ⑤ 昔から変わらず、別府の中心にある。私はこの病院で生まれました。



12月11日(木)開催のクリスマス・コンサート

技 師

- ①卒業大学名、卒業年度、出身大学医局名
- ②専門分野
- ③所属(資格)
- ④コメント
- ⑤趣味等、自己PR

看護 師

- ①出身県
- ②所属病棟
- ③趣味・特技等
- ④自分の目標・目指している看護
- ⑤この病院の良いところ、コメント等

九州大学病院別府病院 外来診療案内

(平成27年1月1日現在)

科名	診療区分	月	火	水	木	金
内科	リウマチ膠原病 骨粗しょう症	堀内孝彦 木本泰孝 有田好之	堀内孝彦 有田好之 塩沢俊一	木本泰孝 合田英明 前川真貴子 塩沢俊一	病棟回診日	堀内孝彦 木本泰孝 有田好之
	糖尿病	有田好之	有田好之	前川真貴子		有田好之
	血液病	———	伊藤能清	伊藤能清		伊藤能清
	腫瘍性疾患	田村真吾	田村真吾	———		———
	消化器・脾疾患	有田好之	有田好之	———		有田好之
	循環器・呼吸器	樋口義洋 小柳雅孔	樋口義洋 (新患のみ)	樋口義洋	樋口義洋(第2,4) 小柳雅孔	小柳雅孔
	老年病	前田豊樹	前田豊樹	前田豊樹	前田豊樹	———
	睡眠時無呼吸外来	小柳雅孔	樋口義洋	樋口義洋	樋口義洋(第2,4) 小柳雅孔	小柳雅孔
	禁煙外来(全予約制)	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
外科	一般消化器門	三森功士 杉町圭史 江口英利	手術日	三森功士 杉町圭史 井口友宏	手術日	三森功士 杉町圭史 井口友宏
	肝・胆・脾	杉町圭史 江口英利		杉町圭史 井口友宏		杉町圭史 江口英利
	乳腺	三森功士 新田吉陽		三森功士 新田吉陽		三森功士 新田吉陽
	セカンドオピニオン	———		要予約(第1,3) 午後3:00～		———
麻酔科	疼痛外来(全予約制)	手術日	手術日	手術日	大庭由宇吾	手術日
整形外科	脊椎外科 (全予約制)	手術日	土井俊郎 東野修 樽角清志 末次弘征	手術日	土井俊郎 東野修 樽角清志	手術日
放射線科	放射線治療	渥美和重	渥美和重	———	渥美和重	———
	放射線画像診断	平川雅和	坂本勝美	平川雅和	平川雅和	平川雅和
共通 (内科・外科・ 放射線科)	上部消化器内視鏡	江口／齋藤	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美	有田／田村
	下部消化器内視鏡	坂本／齋藤	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美	坂本／田村
	EMR/ESD	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美
	ERCP	有田好之	———	———	有田好之	———

※担当医は変更となる場合がありますのでご了承ください。

初診・再診の受付時間 8:30～12:00

整形外科(火・木) 一完全予約制:初診は地域医療連携室へ要Tel

放射線治療(月・火・木) 一初診 8:30～11:00

※但し土日、祝祭日は休診(急患は除く) 麻酔(木) 一完全予約制:初診は地域医療連携室へTel

地域医療
連携室より問合せ先
ご案内

◆CT・MR・内視鏡検査のご依頼

放射線科受付 0977-27-1722(直通)

- ・検査依頼は、電話にて受け付けております。
依頼検査優先時間帯を設けています。
- ・結果は、CDデータ、報告書とともに、ご依頼いただきました先生方へ迅速にお返事いたします。

◆放射線治療のご依頼

地域医療連携室 0120-272-518(専用)
0977-27-2055

- ・乳癌、食道癌、肺癌、前立腺癌、悪性リンパ腫、癌性疼痛に対する緩和治療、その他の悪性腫瘍についてはご相談ください。
- ・放射線治療の診療は、事前に連絡をいただければ、待ち時間が少なくなるよう配慮させていただきます。

その他、外来・入院に関する
お問い合わせ

月～金 8:30～17:00 ☎0120-272-518(専用)

TEL:0977-27-2055(直通) FAX:0977-27-3008(24時間受信可)

九大別府病院だより Vol.12



九州大学病院別府病院

Kyushu University Beppu Hospital

〒874-0838 別府市大字鶴見字鶴見原 4546 番地

代表 TEL 0977-27-1600

URL <http://www.beppu.hosp.kyushu-u.ac.jp/>